

平成 27 年 4 月 1 日

## 中央防災会議において検討された地震動及び津波に係るデータについて

中央防災会議「東海地震に関する専門調査会」、「東南海、南海地震等に関する専門調査会」、「首都直下地震対策専門調査会」及び「日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震に関する専門調査会」において検討された地震動及び津波に係るデータをご希望の方に提供しております。

データをご希望の方は、まず別添の「利用規程」をご覧ください、データの内容や取扱いについてご理解いただいた上で、申込書の提出をお願いします。

なお、ご記入頂く個人情報については、データ提供目的以外には使用しません。

データ提供に当たっては、利用者に記録媒体（DVD-R）をご用意いただくこととし、記録媒体の送付（返送時の送料を含む）等に要する費用はすべて利用者負担とします。また、万一、記録媒体の紛失、損壊等が発生した場合でも、損害賠償を請求しないことに御同意いただきます。

記載事項を確認させていただいた上で、当方より、記録媒体の送付先及び必要量（容量）をお知らせします。なお、DVD については、DVD-R のみ対応可能です。また、データの送付までに時間を要することが予想されますので、これらの点ご留意いただいた上、お申し込み下さいますようよろしくお願い申し上げます。

< 申込先、問合せ先 >

内閣府 政策統括官（防災担当）付

参事官（調査・企画担当）付 高田 幸司

〒100-8969 東京都千代田区永田町 1-6-1 中央合同庁舎 8 号館 3F

TEL : 03-5253-2111（内線 51300）直通 03-3501-5693

FAX : 03-3501-6820

(別添)

## 中央防災会議において検討された 地震動及び津波に係る公開データ利用規程

### 第1条 公開の目的

データの公開は、地域防災計画の策定、既設建造物の耐震化、建造物の耐震性能の向上および将来の防災技術の発展等に資することを目的とする。

### 第2条 データの性格

公開データは、専門調査会の検討時点における調査研究成果や知見を踏まえて作成されたものであるが、今後の調査研究の進展により逐次見直されるべきものである。

地震動データは、地震の影響を広域的に評価するために、約1km×1kmのメッシュ単位で作成したものであり、当該のメッシュ内の細かな地形、地質の変化などを詳細に反映したものではなく、詳細な地震動の検討には馴染まないものである。

津波データは、津波の影響を広域的に評価するため、沿岸域を50m×50mのメッシュ単位で想定したものであることから、これよりも小さなスケールの地形の変化を詳細に反映したものではなく、詳細な津波の検討にはなじまないものである。また、「堤防データ」は、その位置及び高さについて、関係都道府県等に対して実施した調査（照会）結果に基づいて作成したものであり、照会後の改変等は反映されていない。データはあくまでも、50m×50mメッシュで作成したものであり、より詳細な形状、構造を反映したものではない。なお、データの精度については、専門調査会資料において以下の解説が付されていることに留意する必要がある。

#### 【参考（東南海、南海地震等に関する専門調査会資料）】

検討に当たり比較の対象とした過去の地震の震度や津波の分布は、当時の史料を基にしたものであるため、十分な精度があるとは限らない。また、シミュレーションによる想定は、地震発生メカニズム等を背景にしたものではあっても、パラメータ等の取り方でかなり数値が異なる。

今後、各機関が具体的な防災対策等を検討するに当たっては、これらの点に留意し、ここでの検討結果にはある程度幅があることを念頭におく必要がある。

### 第3条 転載・引用に当たっての注意事項

利用者は、公開データを利用して他の作成資料などに転載・引用する場合には、「中央防災会議資料による」旨を明記のこと。

#### 第4条 利用の制限

利用者は、公開データを、次の各号に該当することを除き、編集・加工し、その成果物を自由に頒布、譲渡、貸与することができる。

- 一 公開データをそのまま複製(ファイル形式を変換しての複製を含む)して、第三者に頒布、譲渡すること
- 二 関係法令への抵触、その他、他人の権利を侵害するなどの公序良俗に反する目的、手段、方法で公開データを利用すること

#### 第5条 免責事項

公開データの利用目的および方法については、利用者の判断と責任に委ねられており、中央防災会議及び中央防災会議事務局（内閣府防災担当）は一切関与しない。事由の如何を問わず、公開データの利用により利用者又は第三者に生じた損害については、利用者がその全ての責任を負うものとする。

<現在提供中のデータ>

## I 東海地震、東南海・南海地震について

### 地震動データ

- (1) データセット A (約 1km×1km メッシュデータ)
    - ・ 地震基盤から工学的基盤までの地盤構造モデル
    - ・ 工学的基盤以浅の表層地盤モデル (速度層構造モデル)
    - ・ 計測震度、液状化指標 (PL 値) データ (地震発生 6 ケース※)
  - (2) データセット B
    - ・ 断層パラメータ (巨視的、微視的、地震発生 6 ケース※)
  - (3) 工学的基盤 ( $V_s=700\text{m/s}$  相当層) における代表的な強震動波形
- ★ (3) については、データが大きいため、必要とする地震発生ケース及び都府県をそれぞれご指定下さい。

### 津波データ

- (4) 地形データ (50m×50m メッシュデータ)  
水深および標高の地形データ
  - (5) 粗度データ (50m×50m メッシュデータ)  
Manningの粗度係数のデータ
  - (6) 堤防データ (50m×50m メッシュデータ)  
堤防の配置と高さを与えるデータ
- ★ (4) ~ (6) については、想定東海地震と東南海・南海地震でデータが異なりますので、必要なデータをご指定ください。ご指定がない場合は、東南海・南海地震のデータとさせていただきます。
- (7) 地殻変動量データ (地震発生 6 ケース※) (50m×50m メッシュデータ)  
断層によるコサイスマックな地殻変動量 (上下方向) のデータ  
〔 (7) については、必要とする地震発生ケースをご指定下さい。〕
  - (8) 津波の断層パラメータ (地震発生 6 ケース※)
  - (9) 設定満潮位・海岸における津波の高さ・津波到達時間 (50m×50m メッシュデータ、地震発生 6 ケース※)

### ※地震発生 6 ケース

想定東海、東南海+南海、東海+東南海、東南海、南海、想定東海+東南海+南海

## Ⅱ 首都直下地震について

### 地震動データ

- (1) データセット A (約 1km×1km メッシュデータ)
  - ・ 地震基盤から工学的基盤までの地盤構造モデル
  - ・ 工学的基盤以浅の表層地盤モデル (AVS30 および震度増分)
  - ・ 計測震度、液化化指標 (PL 値) データ (計 18 地震)
- (2) データセット B
  - ・ 断層パラメータ (巨視的、微視的)
- (3) 工学的基盤 ( $V_s=700\text{m/s}$  相当層) における代表的な強震動波形  
〔(3) については、必要とする地震\*及び都県をそれぞれご指定下さい。〕

### ※強震動波形計算を行った 10 地震

- ・ プレート境界茨城県南部
- ・ プレート境界多摩
- ・ 伊勢原断層帯
- ・ 関東平野北西縁断層帯
- ・ 三浦半島断層群
- ・ 神縄・国府津－松田断層帯
- ・ 都心西部直下
- ・ 都心東部直下
- ・ 東京湾北部
- ・ 立川断層帯

なお、下記の 8 地震については、経験的手法により震度分布を推計しているため、強震動波形はありません。

- ・ さいたま市直下
- ・ 羽田直下
- ・ 横浜市直下
- ・ 市原市直下
- ・ 成田直下
- ・ 千葉市直下
- ・ 川崎市直下
- ・ 立川市直下

### Ⅲ 日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震について

#### 地震動データ

- (1) データセット A (約 1km×1km メッシュデータ)
  - ・地震基盤から工学的基盤までの地盤構造モデル
  - ・工学的基盤以浅の表層地盤モデル (AVS30 および震度増分)
  - ・計測震度、液状化指標 (PL 値) データ (計 6 地震)
- (2) データセット B
  - ・断層パラメータ (巨視的、微視的)
- (3) 工学的基盤 ( $V_s=700\text{m/s}$  相当層) における代表的な強震動波形  
〔(3) については、必要とする地震\*及び道県をそれぞれご指定下さい。〕

#### ※強震動波形計算を行った 4 地震

- ・根室沖・釧路沖
- ・十勝沖
- ・三陸沖北部
- ・宮城県沖

なお、下記の 4 地震については、津波の推計のみあるいは経験的手法により震度分布を推計しているため、強震動波形はありません。

- ・明治三陸タイプ地震 (津波の推計のみ)
- ・500 年間隔地震 (津波の推計のみ)
- ・択捉島沖 (経験的手法による推計)
- ・色丹島沖 (経験的手法による推計)

#### 津波データ

- (4) 地形データ (50m×50m メッシュデータ)  
水深および標高の地形データ
- (5) 粗度データ (50m×50m メッシュデータ)  
Manningの粗度係数のデータ
- (6) 堤防データ (50m×50m メッシュデータ)  
堤防の配置と高さを与えるデータ
- (7) 地殻変動量データ (50m×50m メッシュデータ)  
断層によるコサイスマックな地殻変動量 (上下方向) のデータ (8地震)  
〔(7) については、必要とする地震\*をご指定下さい。〕
- (8) 津波の断層パラメータ
- (9) 設定満潮位・海岸における津波の高さ・津波到達時間 (50m×50m メッシュデータ)

※津波の推計を行った 8 地震

- ・ 択捉島沖
- ・ 色丹島沖
- ・ 根室沖・ 釧路沖
- ・ 十勝沖・ 釧路沖
- ・ 三陸沖北部
- ・ 宮城県沖
- ・ 明治三陸タイプ地震
- ・ 500 年間隔地震

## IV 中部圏・近畿圏の内陸地震について

### 地震動データ

- (1) データセット A (約 1km×1km メッシュデータ)
  - ・ 地震基盤から工学的基盤までの地盤構造モデル
  - ・ 工学的基盤以浅の表層地盤モデル (AVS30 および震度増分)
  - ・ 計測震度、液状化指標 (PL 値) データ (計 41 地震)
- (2) データセット B
  - ・ 断層パラメータ (巨視的、微視的)
- (3) 工学的基盤 ( $V_s=700\text{m/s}$  相当層) における代表的な強震動波形  
〔 (3) については、必要とする地震\*及び府県をそれぞれご指定下さい。〕

※強震動波形計算を行った 13 地震

- ・ 猿投－高浜断層帯の地震
- ・ 名古屋市直下 M6.9 の地震
- ・ 加木屋断層帯の地震
- ・ 養老－桑名－四日市断層帯の地震
- ・ 布引山地東縁断層帯東部の地震
- ・ 花折断層帯 (中部・南部) の地震
- ・ 奈良盆地東縁断層帯の地震
- ・ 京都西山断層帯の地震
- ・ 生駒断層帯の地震
- ・ 上町断層帯の地震
- ・ 阪神地域直下 M6.9 の地震
- ・ 中央構造線断層帯 (金剛山地東縁－和泉山脈南縁) の地震
- ・ 山崎断層帯主部の地震